

改訂版 : 基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) によるトランスクリプトを用いた研究方法(コーディングの仕方)2011年改訂版

宇佐美 まゆみ

目次

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| 1. はじめに .....                         | 2 |
| 2. 全ての発話文をコーディングする場合 .....            | 2 |
| 3. 分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合 .....     | 4 |
| 4. ライン中に分析対象とする要素が複数ある場合のコーディング ..... | 4 |
| 5. 引用部がある場合のコーディング .....              | 5 |
| 6. 記号凡例 .....                         | 6 |

## 1. はじめに

本稿では、「基本的な文字化の原則(BTSJ)」によって文字化した資料を用いて行う研究の分析方法を説明する。BTSJは、その名の通り、「基本的な文字化の原則」であり、汎用性を念頭において構築された文字化のルールである。基本的には、「基本的な文字化の原則(BTSJ)」で記述した原則に沿って文字化するが、研究の目的に応じて、例えば、より詳細な音声情報を付与するなど、BTSJの原則を基本にしつつも、必要であれば、独自の記号を追加して対応することも可能である。ここでは文末のスピーチレベルと終助詞を例として、個々の研究目的に応じて分析対象をコーディングする際の工夫のし方を提示する。

コーディングとは、定量的な分析を行うために、会話の中にあられる形式や発話の機能など、研究者が分析対象とする項目を、記号化して入力していくことである。BTSJによるトランスクリプトは、発話文をコーディングの基本単位としている。そのため、発話文が終了していないライン（最後が「,,」のライン）は、コーディングの対象とはならない。その場合は、記入漏れとの混同をさけるため「-」（ハイフン）を入力する（表1のライン27）。

表1 BTSJのルールでは、コーディングの対象とはならない場合の例

| ライン番号 | 発話文番号 | 発話文終了 | 話者 | 発話内容                    | 文末  |
|-------|-------|-------|----|-------------------------|-----|
| 26    | 25    | *     | B  | そう…<です>{。}              | P   |
| 27    | 26-1  | /     | A  | <いや、>{今日から、夏休みじゃないですか,, | - ← |
| 28    | 27    | *     | B  | あー、<そうですねー>{。}          | P   |
| 29    | 26-2  | *     | A  | <子供たちは>{。}              | P   |

また、聞き取れない部分が少しでもある発話文は、コーディングの対象とはしないこととし、コーディング列には、聞き取れない部分がある発話文を示す「#」を入力する。また、研究目的によっては、<笑い>のみで1発話文と認定されている発話文などのように、各研究者の判断によってコーディングの対象としない発話文もある。その場合は、各々の研究者がコーディングの対象としないと決定したことを示す「x」を入力する。

それぞれの記号の定義を以下にまとめる。

|     |   |
|-----|---|
| 「-」 | 発話文が終了していないライン（最後が「,,」のライン）は、コーディングの対象とはならないが、記載漏れとの混同をさけるために「-」を入れる。 |
| 「#」 | トランスクリプト中に、聞き取れない部分が少しでもある発話文に入力する。                                   |
| 「x」 | 各々の研究者がコーディングの対象としないと決定した発話文(例えば<笑い>のみで1発話文と認定されている発話文など)に入力する。       |

次に、「2. 全ての発話文をコーディングする場合」と、「3. 分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合」に分けて、説明する。さらに、「4. ライン中に分析対象とする要素が複数ある場合のコーディング」と、「5. 引用部がある場合のコーディング」について説明する。

## 2. 全ての発話文をコーディングする場合（文末のスピーチレベルのコーディングを例として）

例えば、全ての発話文の文末のスピーチレベルを、「敬体」、「常体」、「丁寧度を示すマーカーがない

発話」の3つに分類するとする。

ここでいう「文末」は、「です/ます」、「だ」のような、発話文末の最後の要素である。文末のスピーチレベルでは、文末に敬体（「です/ます」）があるか常体（「だ」）があるか、または、そのような丁寧度を示すマーカがないかをすべての発話文に、コーディングしていく。

以下の表2に、文末のスピーチレベルのコーディングの記号とここでの定義を記す。

表2 文末のスピーチレベルのコーディングの記号と定義

| 記号 | スピーチレベル         | 定義                                  |
|----|-----------------|-------------------------------------|
| P  | Polite form     | あいさつ、及び、文末が「敬体（です/ます）」体やその活用形である発話文 |
| N  | Non-polite form | 文末が敬体を含まず、常体やその活用形である発話文            |
| NM | No Marker       | 文末に丁寧度を示すマーカがない発話文                  |

次の表3に、「男性友人間の雑談の文字化資料」を用いて、全ての発話文をコーディングする場合の例として、文末のスピーチレベルのコーディング例を示す。

表3 文末のスピーチレベルのコーディングの例

| ライン番号 | 発話文番号 | 発話文終了 | 話者  | 発話内容  | 文末 |
|-------|-------|-------|-----|---|----|
| 45    | 45    | *     | M02 | 休みかー<笑いながら>>>〔独り言的に〕。                             | N  |
| 46    | 46    | *     | M01 | <やっど>>>らん、やっどらん<笑いながら>。                           | N  |
| 47    | 47-1  | /     | M01 | ちや、これから、これ終わったら(うん)とりあえず(うん)、コンビニ行って(うん)、おにぎり買って、 | -  |
| 48    | 48    | *     | M02 | うえー〔↑〕驚いた様子。                                      | NM |
| 49    | 47-2  | /     | M01 | ヨーグルト買って(うん)、                                     | -  |
| 50    | 49    | *     | M02 | で〔↑〕、ジム?。   | NM |
| 51    | 47-3  | *     | M01 | ジム=。  | NM |
| 52    | 50    | *     | M01 | =あー、すんのかな=。                                       | N  |
| 53    | 51    | *     | M01 | =今日####すんのかな=。                                    | #  |
| 54    | 52-1  | /     | M01 | ちやう、<でもハム>>>、                                     | -  |
| 55    | 53    | *     | M02 | <うん、>>>しないつつとつたよ。                                 | N  |
| 56    | 52-2  | *     | M01 | もうね、ハムが切れそうだもん、今日、おれ。                             | N  |
| 57    | 54    | *     | M02 | うん<笑い>。   | NM |
| 58    | 55    | *     | M01 | あのねー、あのねー<軽<笑いながら>、あほみたいにペース速すぎ<軽い笑い>>>なんだった。     | N  |
| 59    | 56    | *     | M02 | おれ、でも、全然まだいけたよ。                                   | N  |
| 60    | 57    | *     | M01 | ちが、ちが、ちが。   | N  |
| 61    | 58-1  | /     | M01 | おれは、練習したんだった、もう〔この間、M02は笑っている〕、                   | -  |
| 62    | 59    | *     | M02 | <軽い笑い>。   | x  |
| 63    | 58-2  | *     | M01 | 一通り。  | N  |
| 64    | 60    | *     | M01 | そんなに、もう、まじでへこんだわ=。                                | N  |

### 3. 分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合（終助詞のコーディングを例として）

終助詞は、すべての発話文に出現するとは限らない。終助詞についてコーディングする場合、「終助詞」というコーディング欄を設けて、終助詞が現れた発話文にその分析対象とする終助詞を入力する。ただ、BTSJのルールでは、コーディングの際には、入力漏れとの区別を明確にするために、空欄は設けず、全ての発話文に何らかの記号を入力することを原則としている。そのため、終助詞が使われていない発話文には、発話文の中に分析項目に該当するものがないことを表す「na」(Non Applicable)という記号を入力する。また、研究者がコーディングの対象とはしないと判断した発話文がある場合は、「コーディングの対象とはしない」ことを示す「x」を入力する。以下の例ではライン番号2の笑いのみの発話文がこれに相当する。

次の表4に、「初対面の会話の文字化資料」を用いて、分析対象が現れた発話文だけをコーディングする場合の例として、終助詞のコーディング例を示す。

表4 終助詞のコーディングの例

| ライン番号 | 発話文番号 | 発話文終了 | 話者    | 発話内容                         | 終助詞 |
|-------|-------|-------|-------|------------------------------|-----|
| 1     | 1     | *     | JSM01 | どうも、はじめまして。                  | na  |
| 2     | 2     | *     | JSM01 | <笑い>。                        | x   |
| 3     | 3     | *     | JBF01 | はじめくまして>{<}                  | na  |
| 4     | 4     | *     | JSM01 | <「JSM01 姓」>{<}と申します>{<}。     | na  |
| 5     | 5     | *     | JBF01 | <「JBF01 姓」と申します>{<}。         | na  |
| 6     | 6     | *     | JSM01 | 私はずっと東京生まれの東京育ちなんですよ<笑いながら>。 | よ ← |
| 7     | 7     | *     | JBF01 | ええ。                          | na  |

### 4. ライン中に分析対象とする要素が複数ある場合のコーディング

研究者が扱う分析対象とする要素が、場合によっては、1発話文中、あるいは通常の1ライン中に複数現れることがある。複数の要素をコーディングするのに1つのセルしかないとは、コーディングができない。このような場合には、複数の要素を個々にコーディングできるように、各分析対象項目の後ろに「&」をつけて改行し、1つの要素につき1つのコーディングセルが割り当てられるようにする。つまり、「&」は、BTSJの本来のルールでは改行されないが、1発話文内の複数の要素をコーディングしたい場合に、便宜上改行することを示すものである。

ここでは、「&」を用いて便宜的に改行する場合の具体例として、あいづちのコーディングを取り上げる。あいづちについても、様々な観点から、個々の研究者の目的に応じた分析がなされ得るが、ここでは、その一例として、1発話文中に複数回現れることの多い「相手の発話に重なる短い小声のあいづち」を分析対象とする場合のコーディング例を提示する。

1ライン中に複数のあいづちが現れた場合は、1つのあいづちにつき1つのコーディングセルを割り当てるためには、あいづちが現れたところでそのつど改行する必要がある。その場合、あいづちの後に「&」をつけて改行する。改行した場合は、その発話文がまだ終了していないことを明示するために、ラインの末尾に「,」を付ける。本来は1発話文であるため、発話文番号は同じであるが、「&」をつけて改行された発話の順にそって、発話文番号に「-」をつけて、小文字のアルファベットを記す。この場合、アルファベットを用いるのは、複数ラインにわたる発話文番号の通し番号(以下の表5の53-1、53-2、53-3/54-1、54-2)と区別す

るためである。

表5に、「あいづち」をコーディングする場合の「&」の使用例を示す。

表5 コーディング項目が1発話文中や1ライン中に複数出てくる場合

| ライン番号 | 発話文番号 | 発話文終了 | 話者  | 発話内容                              | 小声のあいづち |
|-------|-------|-------|-----|-----------------------------------|---------|
| 53    | 52    | *     | F06 | あたしルールわかんないけど。                    | na      |
| 54    | 53-1  | /     | F05 | いや、<だから><)&,                      | -       |
| 55    | 54-1  | /     | F06 | <学校><)&,                          | -       |
| 56    | 53-2  | /     | F05 | 3分‘ぶん’のなにとか&,                     | -       |
| 57    | 54-2  | *     | F06 | <決まり><)&。                         | na      |
| 58    | 53-3  | *     | F05 | <決まって><)&てー。                      | na      |
| 59    | 55    | *     | F06 | そうだよねー。                           | na      |
| 60    | 56    | *     | F06 | 困ったね。                             | na      |
| 61    | 57    | *     | F05 | [息を吸い込んで]でもねー、やんなと思うんだ。           | na      |
| 62    | 58    | *     | F05 | だって、どっさり遅れてるからー(うん、うん)。           | うんうん    |
| 63    | 59    | *     | F06 | 2対1なの?、じゃあ今。                      | na      |
| 64    | 60    | *     | F05 | にいいち[2対1]。                        | na      |
| 65    | 61    | *     | F05 | うん。                               | na      |
| 66    | 62    | *     | F06 | 授業参観、何言われた?<笑いながら>。               | na      |
| 67    | 63    | *     | F05 | えー、授業参観ねー、何かねー<笑い>、やだったのよ<2人で笑い>。 | na      |
| 68    | 64    | *     | F05 | あ、授業参観、なんか、2個あったじゃん。              | na      |
| 69    | 65    | *     | F06 | うん。                               | na      |
| 70    | 66    | *     | F05 | 校長と教頭のやつ。                         | na      |
| 71    | 67    | *     | F06 | うん、わかんない。                         | na      |
| 72    | 68    | *     | F06 | =2個あったの知らない。                      | na      |
| 73    | 69-a  | /     | F05 | 校長と教頭のやつは(うん)&,                   | うん      |
| 74    | 69-b  | /     | F05 | 何事もなく(うん)&,                       | うん      |
| 75    | 69-c  | /     | F05 | その後なんにもフィードバックも(うん、うん)&,          | うんうん    |
| 76    | 69-d  | *     | F05 | 何にもなく(うん)、<普通の><)&。               | うん      |
| 77    | 70    | *     | F06 | <まー、形><)&だけだよ。                    | na      |

## 5. 引用部がある場合のコーディング

BTSJでは、発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が直接引用された場合、その部分を“ ”でくくることになっている。この記号を利用してコーディングをする際の具体的な例として、文末のスピーチレベルの分析を紹介する。

会話参加者が発した発話文には、会話参加者自身や第三者の引用が含まれる場合がある。研究目的によっては、引用部は分析対象としないことも可能であるが、引用部をコーディングの対象とする場合は、主となる発話文のコーディングセルとは別に、「引用部」をコーディングするセルを別に設ける。

以下の表6に、文末のスピーチレベルを例にコーディングの例を示す。

表6に、「引用部」セルを追加した場合のコーディングのし方を示す。

表6 文末のスピーチレベルと引用部のスピーチレベルのコーディングの例

| ライン番号 | 発話文番号 | 発話文終了 | 話者 | 発話内容                                      | 文末 | 引用部 |
|-------|-------|-------|----|---|----|-----|
| 21    | 21    | *     | A  | なんか、〈笑いながら〉“やはりちょっと進め方が違いな”という気がしました〈けど〉。 | P  | N   |

## 6. 記号凡例

これまでに提示してきたBTSJによるトランスクリプトを用いた研究方法(コーディングの仕方)に用いられる記号を以下にまとめる。

- 「-」 発話文が終了していないライン（最後が「,」のライン）は、コーディングの対象とはならないが、記載漏れとの混同をさけるために「-」を入れる。つまり「-」は、BTSJのルールでは、コーディングの対象とはならない発話文を指す。
- 「#」 トランスクリプト中に、聞き取れない部分が少しでもある発話文。
- 「x」 各々の研究者がコーディングの対象としないと決定した発話文(例えば〈笑い〉のみで1発話文と認定されている発話文など)。
- 「na」 発話文の中に分析項目に該当するものがない（つまり、分析対象が現れていない）発話文。